



小高誠太郎 顧問 (初代会長)=右と板屋 副会長=左

バスで送迎する手配をしたり、細かく校長に許可を得たり大変でした。合戦のシーンで騎馬戦を演出したのだけでも、子ども達が馬の組み方を知らなかったのには驚いた。苦労したからこそ立派な舞台になったんでね。

○：第3回芸術祭のジャズバンドとオーケストラの共演もユニークな試みだったし、小ホールでの「夕鶴」公演も満杯で好評だった。

K：準備が大変でした。あの頃は2日間で3つの舞台公演をやるなど、今から思うと無茶をしていましたね。

K：ところで、現在開催中の市民展に、小高さんも水彩画を出展されていますね。絵を始めたキッカケを教えてください。

○：絵を描くのは小さいときから好きで得意だった。大学を卒業してからずっと教職に就いていましたが、定年後は絵を描こうと思って、校長を退職するときに記念品に「額」をもらったんですよ。しか

し、定年後は暇だろうと、推されて自治会連連合会の会長になったので、それどころではなくなりました。その後も平成7年まで自治会連合会の会長職にあって、8年から社会教育委員に任命された。どうしてもと請われて11年からは社会福祉協議会の会長を引き受けることになったが、同時期に文団連の話も降ってきた。故町田潤一前市長もメンバーに加わっていた「狭山市の文化を考える市民会議」が平成10年に立ち上がり、私もメンバーの一人となり議長に選出された。その後「設立準備実行委員会」を経て平成11年に文団連が設立され、初代会長を引き受ける事になった。

そんなこんなで絵を描く時間が取れなかったが、文団連の会長を退任してからぼつりぼつりと始めたんですよ。若いときから一生懸命やっていたら、画家になっていたかも… (笑)

K：「額」をもらわれてから随分掛かりましたね。

○：自治会連合会会長8年と社会福祉協議会8年。

文団連会長も8年で、8に縁がある。

実を言うとい番力を入れたのは、文団連の立ち上げですね。

K：民間団体だし、一から自分達で考えて実行しなくてはならなかった。

○：振り返ってみると、それぞれの年度で新しい取り組みを行って、成果を上げてきました。文団連が狭山市の文化振興に貢献してきたことは間違いのないでしょう。

K：これからも貢献し続けたいですね。

本日はどうもありがとうございました。

(インタビュー：5月30日 市民交流センター内にて)
会報チーム：板屋、高沢、藤寿、小川

子ども時代にたくさんの出会いを

第23回 青少年文化体験フェスタ

7月5日(土) 狭山市立南小学校にて実施

子どもの頃の体験は、その後の人生に影響するという独立行政法人国立青少年教育振興機構の報告(平成22年)があります。この青少年文化体験フェスタは、文化体験の機会を増やすことで日本文化の伝承や子どもたちの健全育成に寄与し、もって、子どもたちの豊かな人生と市民文化の向上・発展につながることを願い、毎年開催しているものです。

今回は、日本舞踊・新舞踊・民謡の唄と太鼓や三味線・工作・和太鼓・朗読劇・箏・ジャズダンス・いけばな・世界の言葉であそぼう・オカリナの演奏・絵画・中学生ボランティアに、新しく手織りと紙芝居が加わり、15種類の講座が行われます。

校長先生のご理解とご協力をいただき、小学校を会場にすることで子どもたちが参加しやすい環境になっていることを有難く思います。昨年よりPTA連合会の皆様のご協力も頂き、子どもたちに安全で豊かな体験の場を用意しています。

多くの子どもたちの参加を期待します。

実行委員長
岸野 智子

常任理事会便り

今年度の重点項目に「広報活動の充実」を挙げています。当会報の活用もその一つで、より多くの会員団体イベント紹介や会員募集情報を掲載していく予定です。また、FMチャッピーの協力を得て、本年度もFM放送を利用した文団連自主事業や会員団体イベントの紹介を進めます。

また、当会報内容の更なる充実も課題となっていますので、皆様もお気づきの点や要望等をどしどし事務局までお寄せください。

小川事務局長